

研究部総覧

高橋 香樹

二十五年度研究部の成績が発表されました。この研究部は、他誌にはない特別かつ有益な好企画です。推薦、準同人、同人といった地位に甘んじることなく、前向きに書の研鑽を積む場としては、これほど充実した内容はありません。

今回は、大賞に稲畑曄穂さん、福田香陽さん、準大賞に柴山紫香さん、漢字部門賞に田中胡秋さん、かな部門賞には岩本抱水さん、大和田和子さんが受賞されました。

大賞の稲畑曄穂さんは、二十年に漢字部門賞、昨年は次点でした。今年、秀逸二回佳作三回の成績を修めました。福田香陽さんは、十八年に大賞、十九年にかな部門賞、昨年は準大賞と受賞の常連です。準大賞の柴山紫香さんは、研究部では初めての受賞。かな畑の方が今年、漢字部門でも好成绩を修めている。

この勢いで本年度は大賞を勝ち取りたい。漢字部門の田中胡秋さんは、昨年の次点、漢字部門賞に引き続き、今年も次点、漢字部門賞の受賞。胡秋さんも本年度は是非とも大賞、準大賞を受賞したいところ。かな部門の岩本抱水さんは、二十一年にかな部門賞、二十三年には大賞、二十四年はかな部門賞と近年急速に力をつけてきている。今後楽しみな人。大和田和子さんは、二十三年にかな部門賞とかなでは実力者のひとり。今回は、九回出品ながら好成绩を修めた方が二人。十回出品ならば受賞の可能性があっただけに残念。本年度は、次点以下十人の氏名を発表することにしました。それを見ると過去に受賞された方が多く、点差もわずかです。更なる研鑽期待しています。

(成績発表は13ページからです。)

改めて落款印への認識を！

同文会研究会

3月2日(日)開催

北沢 博舟

講師 高橋 香樹

この六月に開催される書道同文展に向けて、「作品づくり」に欠かすことの出来ないであろうこの講座は、約八十名の参加者のもと、開かれました。「落款印について」と題し、幅広く深い知識や押印の重要性の再認識とも言える講座となったのではないかと思います。

高橋先生は、刻り始められてから三十数年、これまでに刻された「印」は一万顆以上とのこと。手渡された資料には先生がこれまでに刻された印(姓名 雅号 引首 堂号 成語

遊)が、大は10cm位から小は5mm位まで数々の種類が載っていて大変参考になりました。私達にとって落款印は書の完成を表わす欠くべからざるもの、という認識のもとその鈐印(押印)についての手法を直に学べたことは大変参考になりました。そして、用紙の大きさや表現の仕方、字数等にもよるのでしようが、漢字・仮名・同文新書(漢字仮名交じり)作品に用いる印の寸法の参考となる表示は、大いに役立つであろうと思います。

会場の机上に飾られた先生の巻子による素晴らしい御作品二巻を取り囲んで観ながら会場を後にいたしました。ありがとうございました。



興福寺断碑



是使金鋪接慶。玉璽承官。長戟榮於(司宮)。
 是れ金鋪もて慶に接し、玉璽もて官を承け、長く(司宮)に戟榮し、

接
 璽

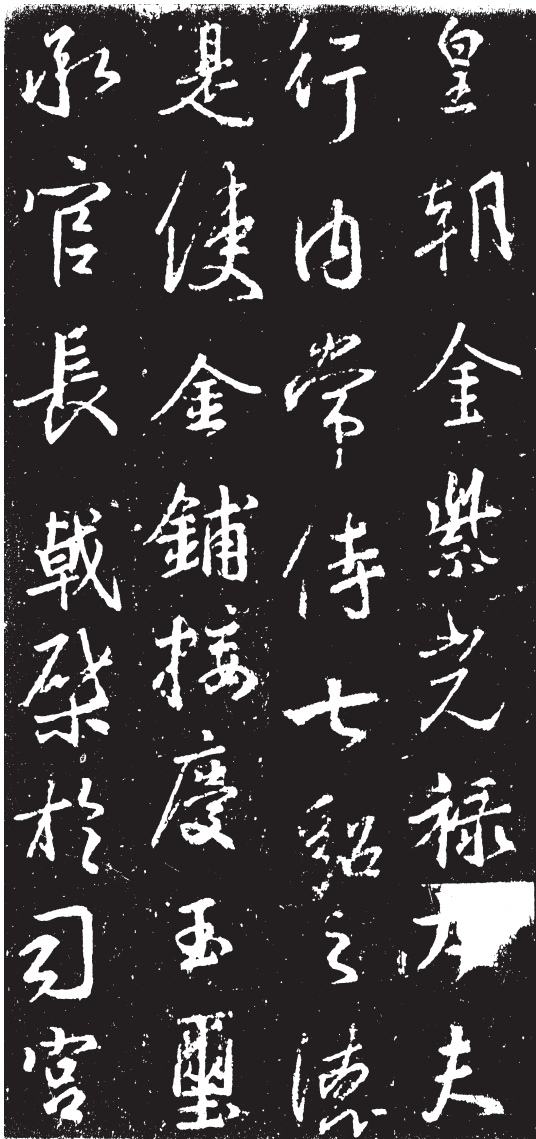
条幅臨書部は半紙臨書部と連動
 しています。半紙に取り組んだ
 方は是非条幅にもチャレンジし
 てください。また条幅だけ出品
 も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「○○臨」と調和を

工夫し書き入れる。

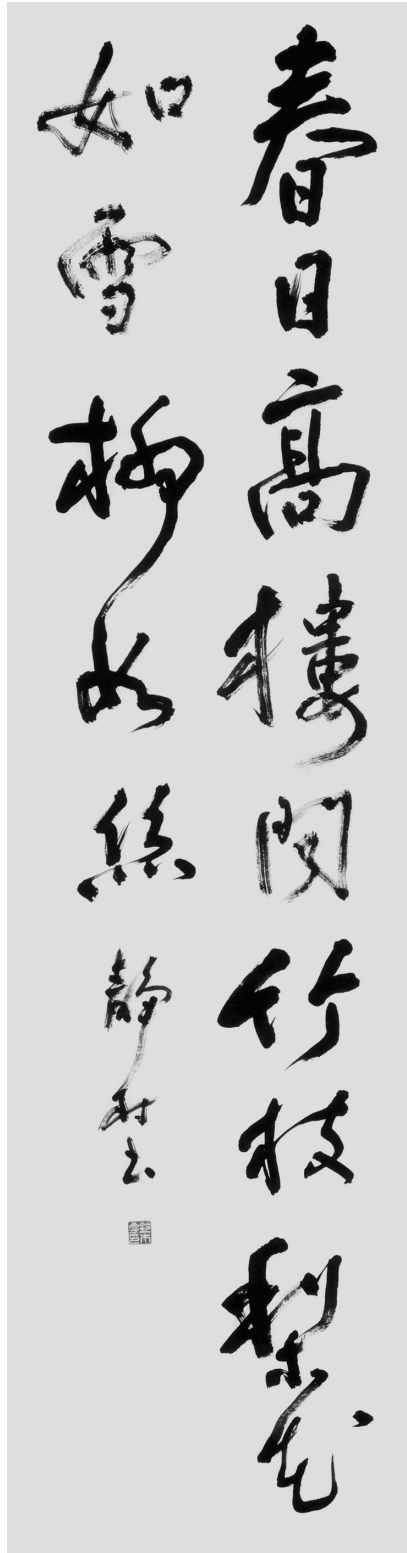
▽出品料五四〇円。



◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A
鈴木静村書

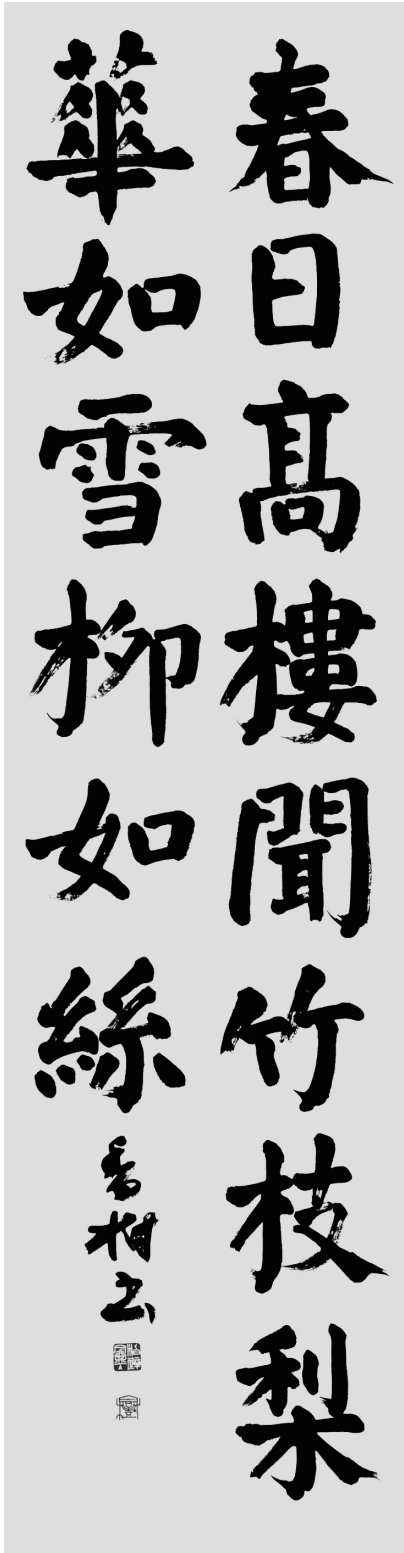
春日高樓聞竹枝 梨花如雪柳如絲 (錢惟善)
春日が高樓に竹枝を聞く、梨花は雪の如く柳は糸の如し。



B

高橋香樹主幹書

同じ短鋒(和筆)ながら、細めで見るからにひ弱。疲れの筆力を想わしている。例作としては合格点にはならない。みなさんはそれぞれの「個」を込めて蘇らせてほしい。春、四画目の払い、弱くならぬよう。高、ハンゴの土台もがっしりと。樓、つくりの表現は多様、字典参照のこと。竹、私には墨継ぎ。梨花、一字として、如雪、右二字を意識し、渴筆にも活き。柳、墨継ぎ。ただこの連綿線は渋線、真似しないこと。



久し振りに楷書です。今回は顔真卿の仿書。顔真卿は、変人か天才か。どちらもあるほどと思わせる作を残しています。構えは向勢で、ハネ(中ほどから押してゆき末筆で少し左にずらし、左回り回転してハネる。)、右払い(徐々に押してゆき一旦止まり、筆を引き上げ、鋒先を引き抜く。)が大きな特徴です。はっきりしているので仿書しやすいかと思えます。

予告 (六月二十二日締切)

洗竹澆花興有餘 (顧況)

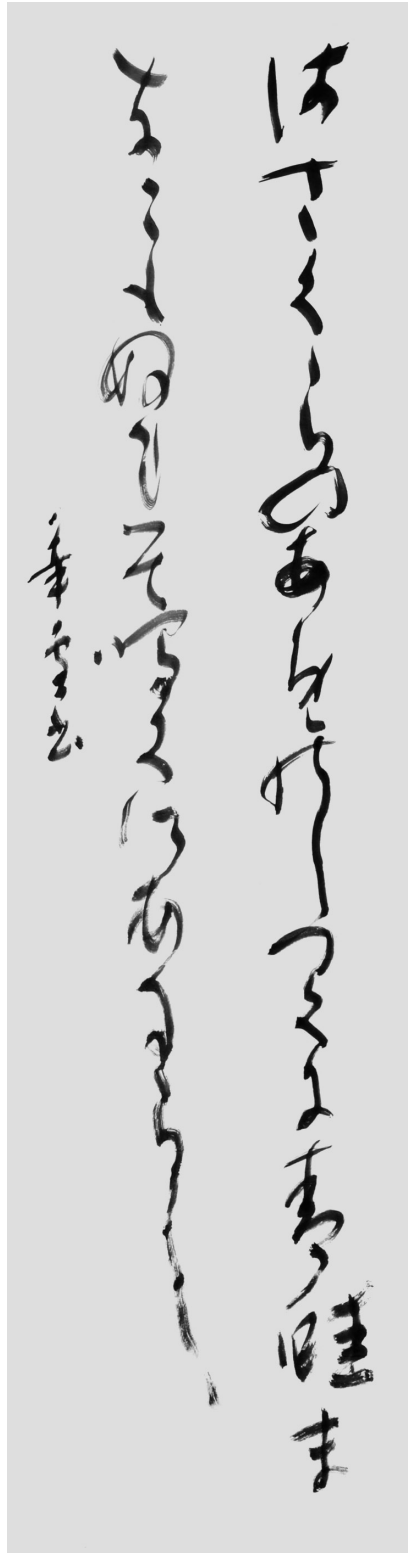
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

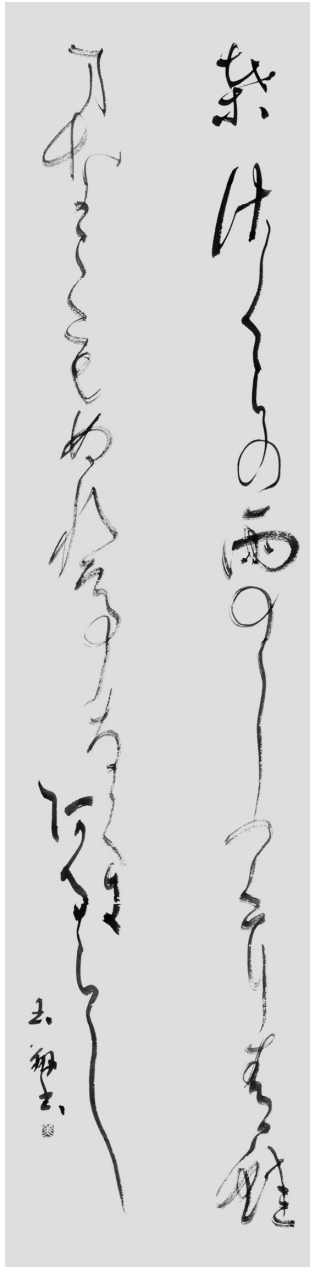
葉ざくらの雨の雫に青蛙まなこも濡れて鳴くにあるらし (太田水穂)
はさくらのあ免能しつ久尔青蛙まなこもぬれて鳴久にあるらし



B

福田玉翔先生書

葉ざくらの雨のしづく耳青蛙万なこ毛ぬれ亭奈く尔阿るらし



学び方

今回は半切二行書きの範疇で、二行目の下部だけ二行にする構成にしました。ほとんど二行書きの感覚ですから抵抗なく取り組めると思っています。後半の三行になる部分は、文字の大きさや分量に配慮が必要です。二行目最後の「尔」で墨継ぎをして、三行目との一体感を考慮しました。また二行目下部は三行目を迎え入れる空間を確保しておかなければなりません。一行目では故意に同じ「の」を近くで二回使いましたが、字形の変化を楽しみました。条幅作品は特に、運筆の速度とリズムで表情が変わります。部分的に速度とリズムを習練するのも有効だと思います。

太田水穂 (明9〜昭30)
長野県出身。明治31年長野師範学校を卒業。33年短歌会「この花会」を組織す。41年上京、文筆の人となる。大正4年『潮音』を創作して短歌の制作と研究に専心。歌論や古典研究にも力を注ぎ、「芭蕉研究会」を結成。昭和14年一家で鎌倉に移住。

予告 (六月二十二日締切)

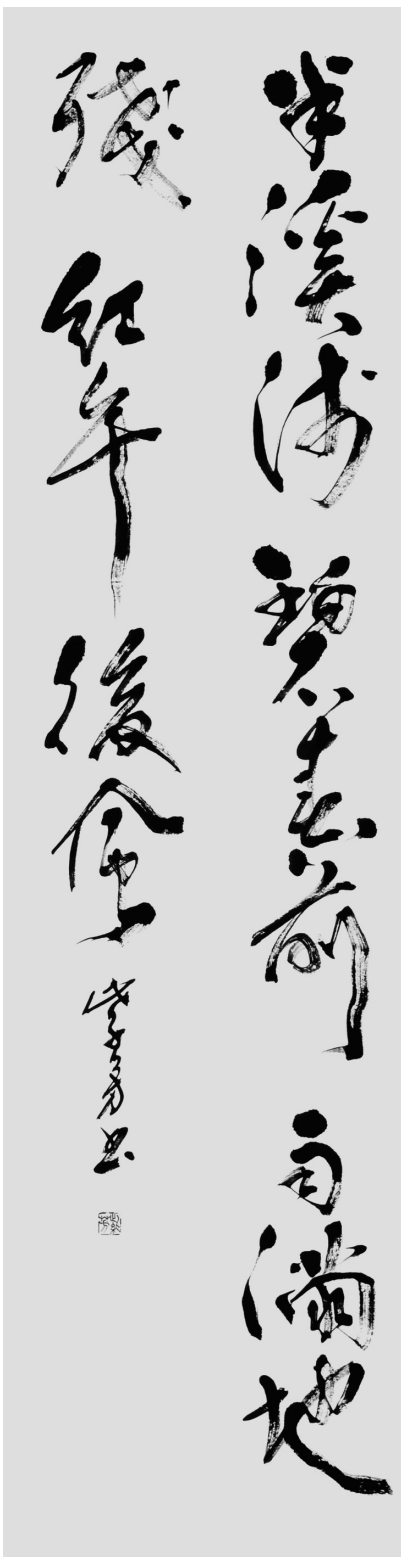
道のべの草の青葉に駒とめてなを (ほ) 故郷をかへりみるかな (新古今和歌集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条 幅 部 随 意 参 考

高橋紫芳先生書

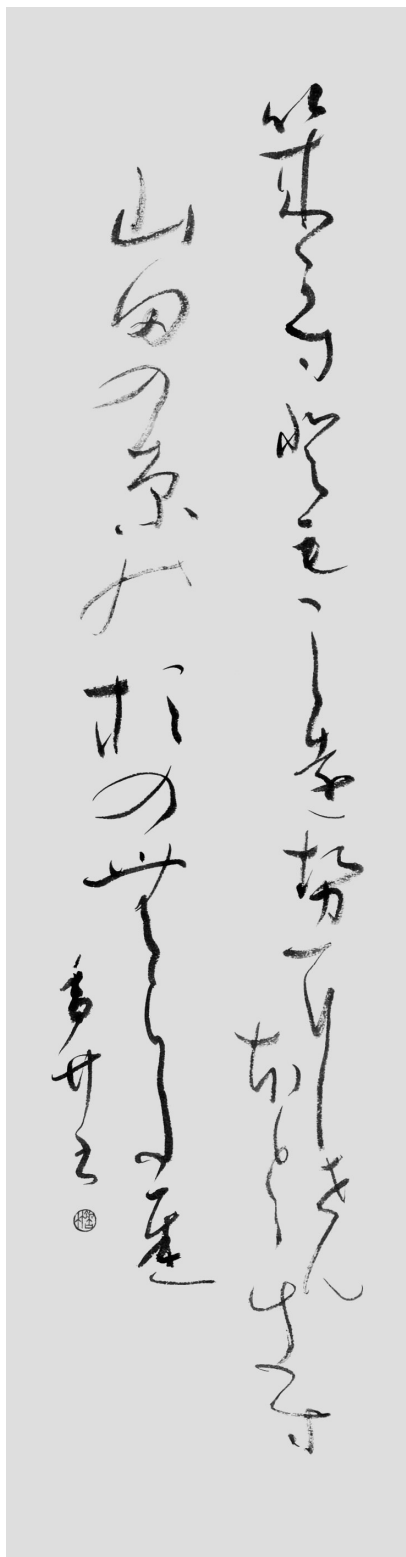
半溪淺碧春前雨 滿地殘紅午後風（曹伯啓）
 半溪の淺碧春前の雨、滿地の殘紅午後の風。



訳：谷川半分を流れる浅みどりの水は雪まだ残る春前の雨、地上二面の落花は春過ぎた午後の風に落ちる。

青柳香竹先生書

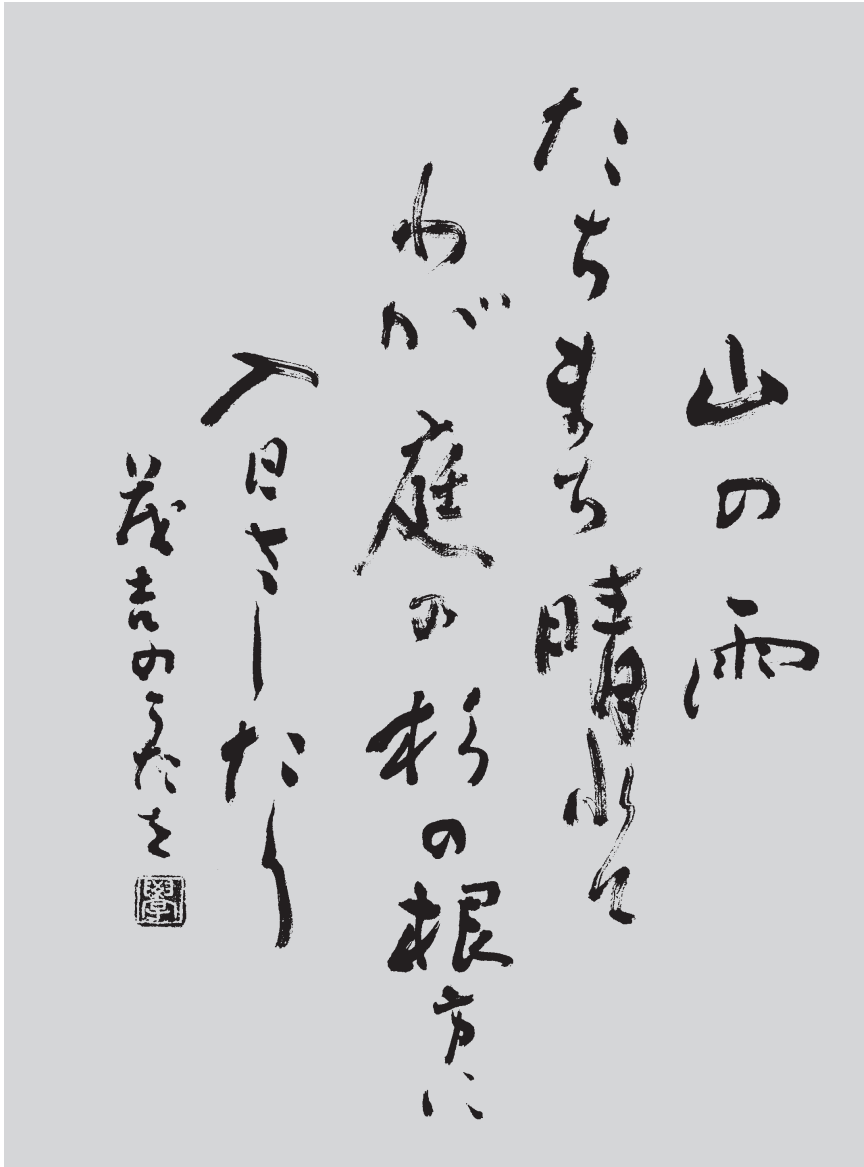
きかずともこゝをせにせん 郭公山田の原の杉のむらだち（新古今和歌集 西行）
 幾可寸登毛こゝ遠勢耳世ん本とゝ支寸山田の原能杉の無ら多遅



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

鈴木静村書

この散らしは平板ながら、私にはクセになっている形。三行目の部分で墨継ぎ、この作の場合は「杉」。二行目は多少うねりの流れ、三行目「わが庭」の渴筆線は大切、成功させたい。四行目、サラリと伸びやかに明るい線。
落款は「茂吉のうたを」に「印」で締めたい。



山の雨

たちまち晴れて

わが庭の

杉の根方に

入日さしたり

(齋藤茂吉)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

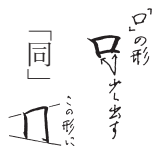
和光同塵(老子)

訳：己の知恵の力を和らげ、世俗の塵に同化していく。



〈大きく見せる〉

四字書きは、布置を気にしてややもすると萎縮しやすく、線も細めに、形もこじんまりとなり易い。今月の課題は、右払い、之繞の字がないので、はみ出しの心配もなく、暢びやかに運筆できると思う。四字全体、大きく見せるように心がけてほしい。

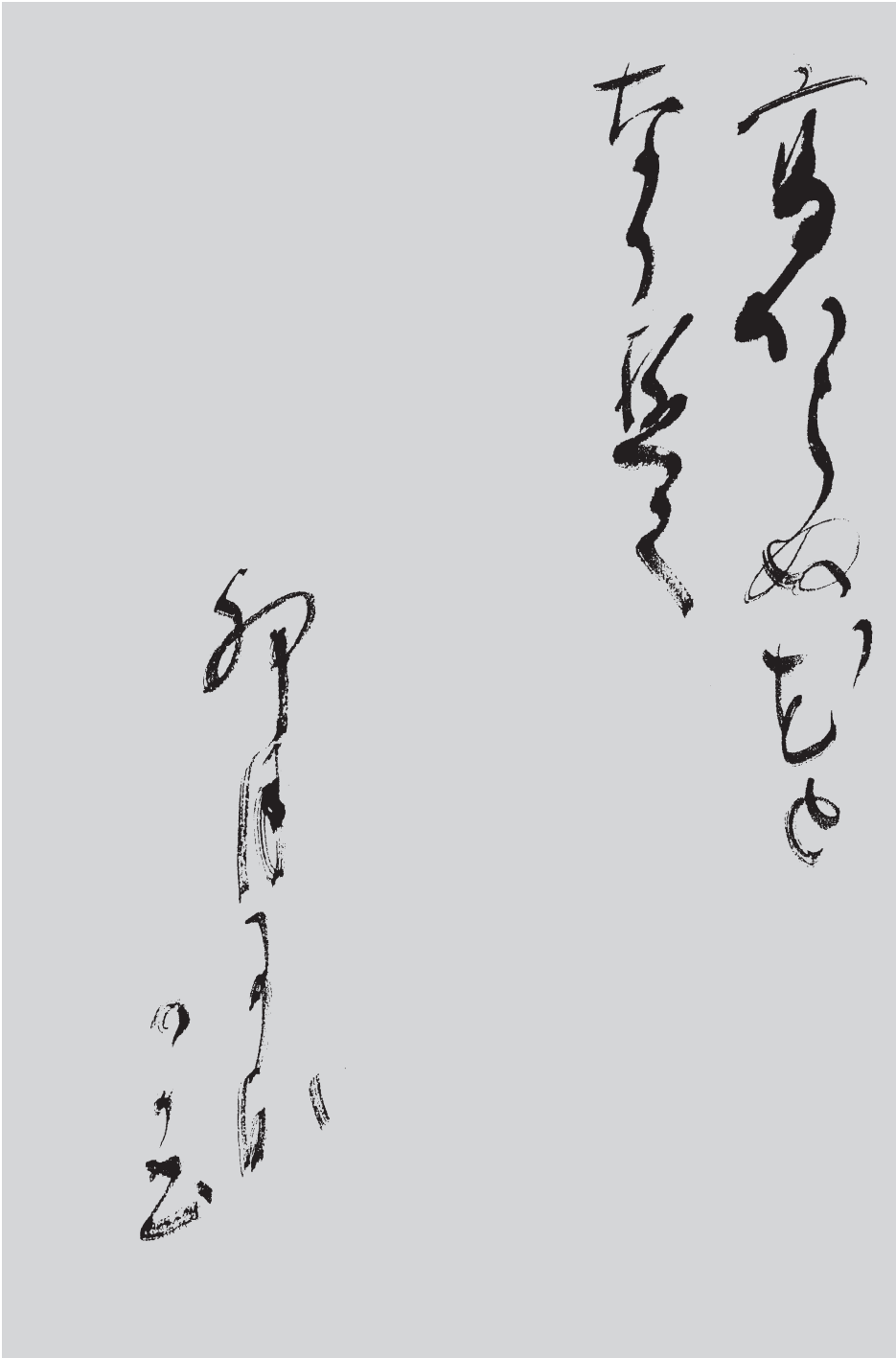


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

高からぬ花となりゆく卯月かな (蘭更)
高からぬ花となり遊久卯月可那



〈連綿線について〉

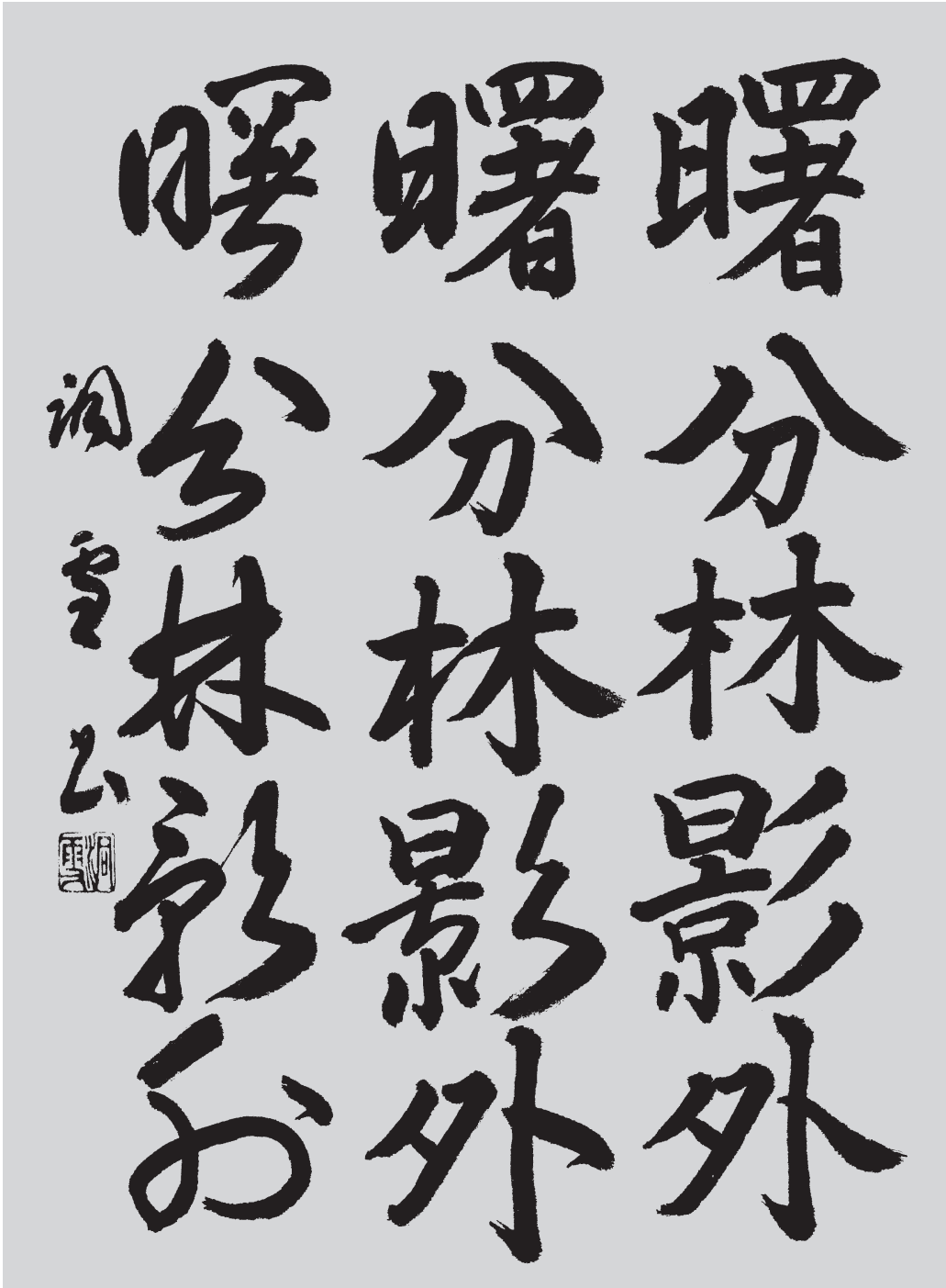
「高」から「か」また「な」から「り」への連綿線の表われは太い強いとして捉えられやすい。特に初歩段階の人は、このまま太くそっくりに書こうとするため、遅渋しがちになり易い。筆圧を強め速さの用筆に心がけてほしい。なお「花」末画点も単に斜画のように引き易いが、弾み用筆で「点」を意識して。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

加藤洞雪先生書

曙分林影外（李昌府）
あけぼのわかりんえいほか
曙は分つ林影の外。

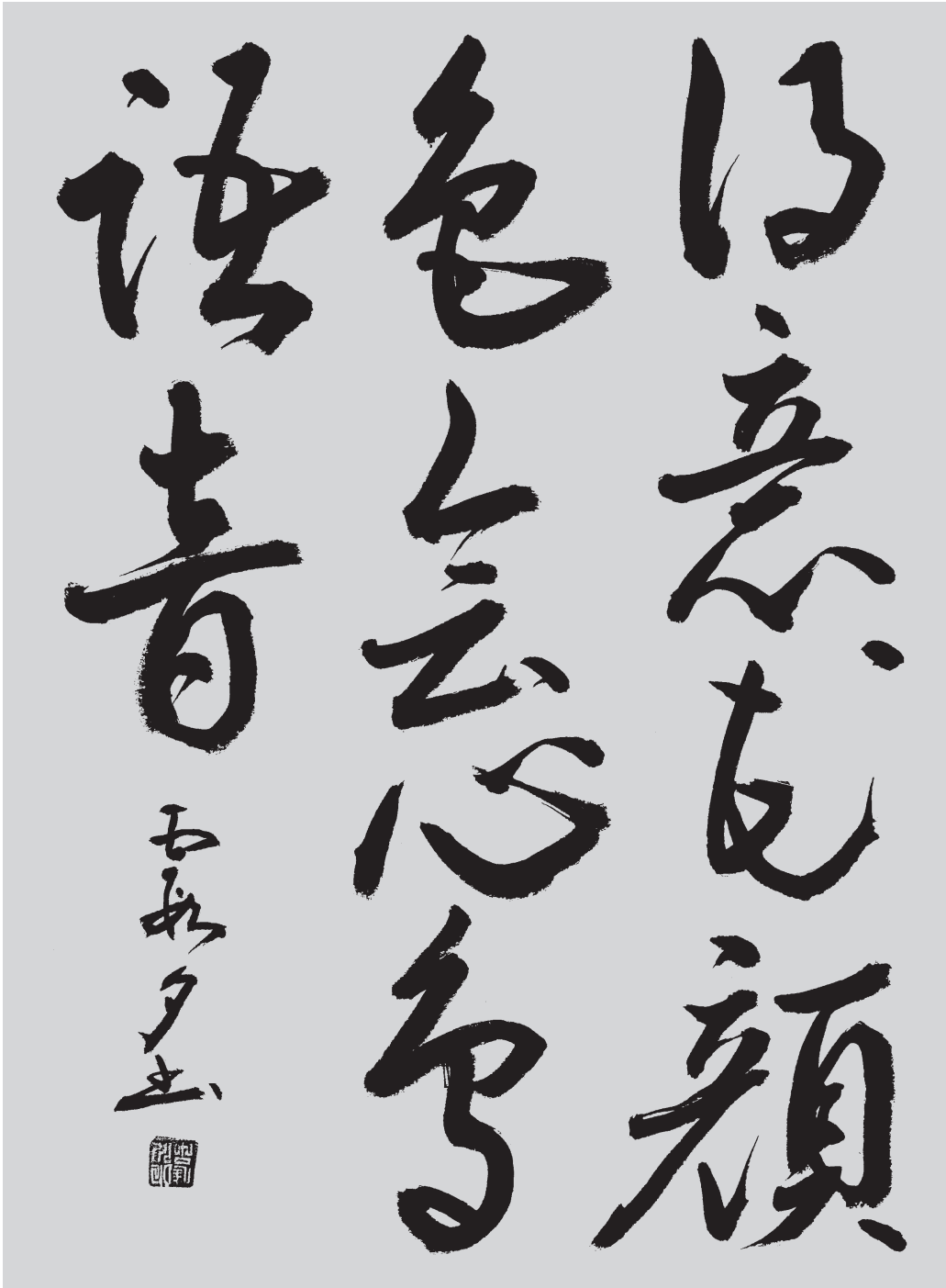


訳：朧なる林の彼方に夜は明けそめ

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

外川霞夕先生書

得意花顔色 會心鳥語音 (潘柳章)
得意花の顔色、會心鳥の語音。



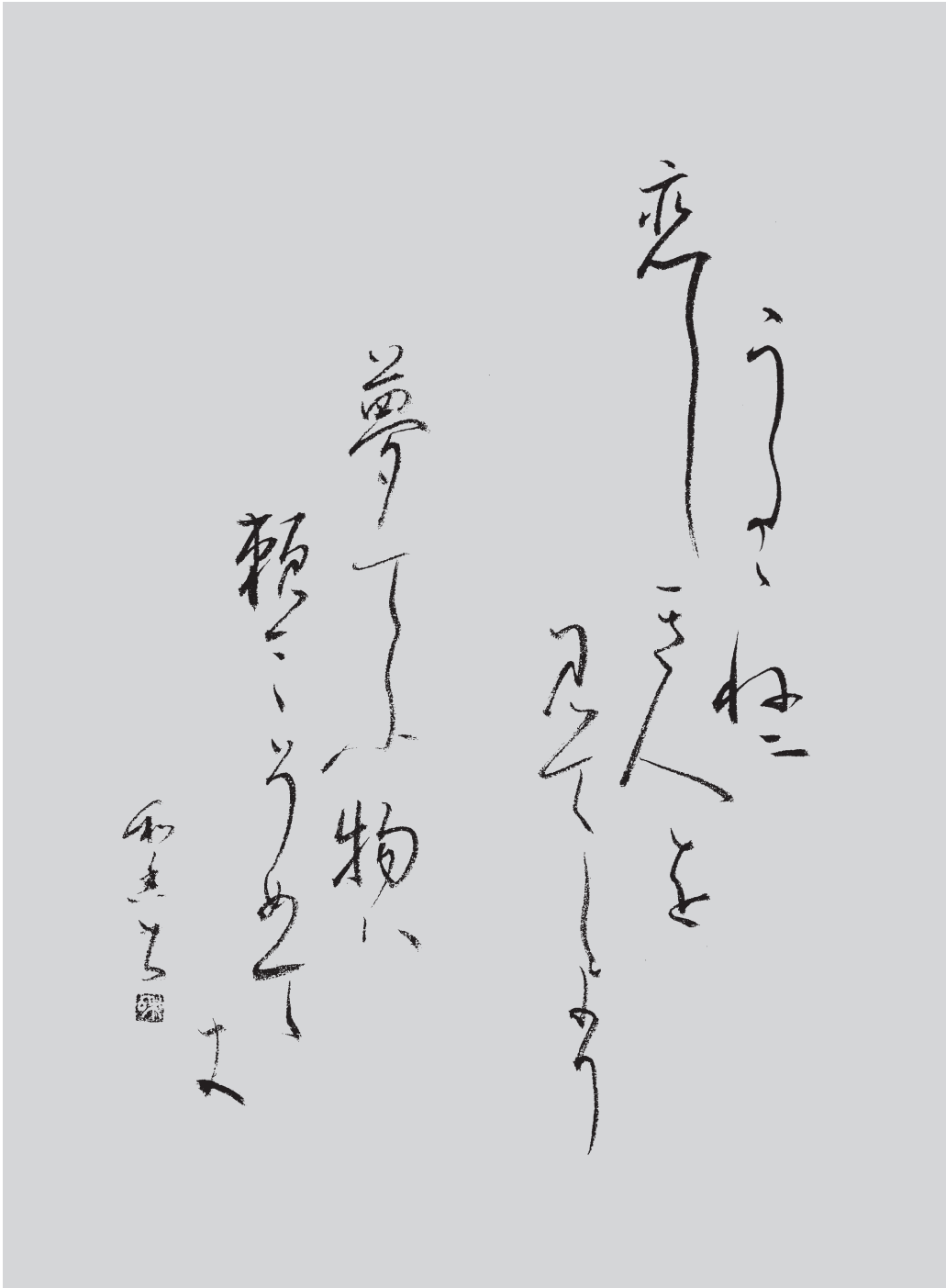
訳：花は咲いて得意げの色に見え、鳥の鳴く声は心に適ったようにきこえてくる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

内田和香先生書

うたたねにこひしき人を見てしより夢てふものは頼みそめてき（古今和歌集 小野小町）
うたねに二恋しき人を見天しより夢天ふ物八頼三曾め天支



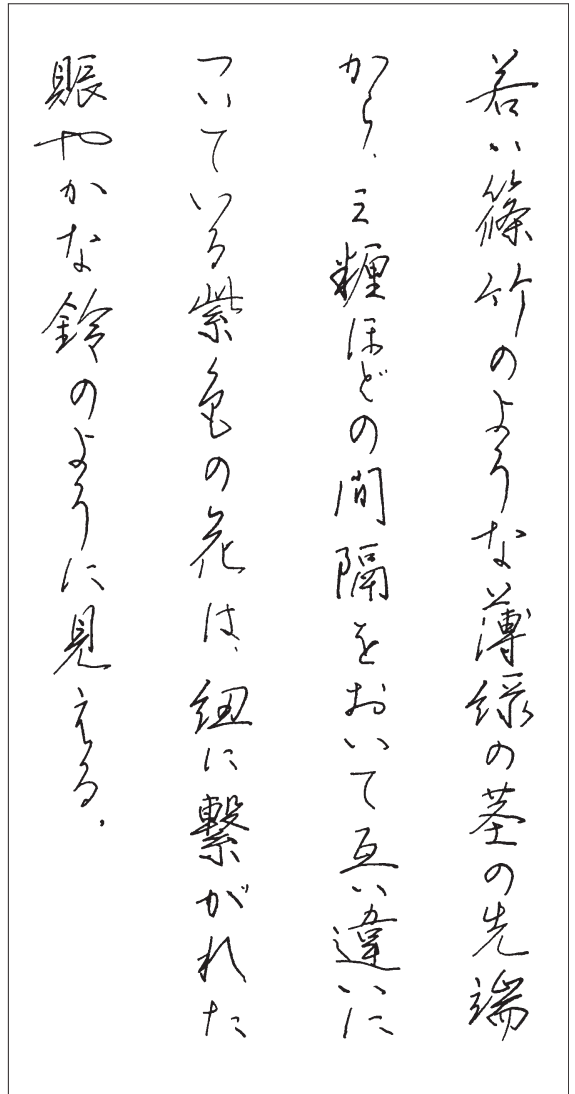
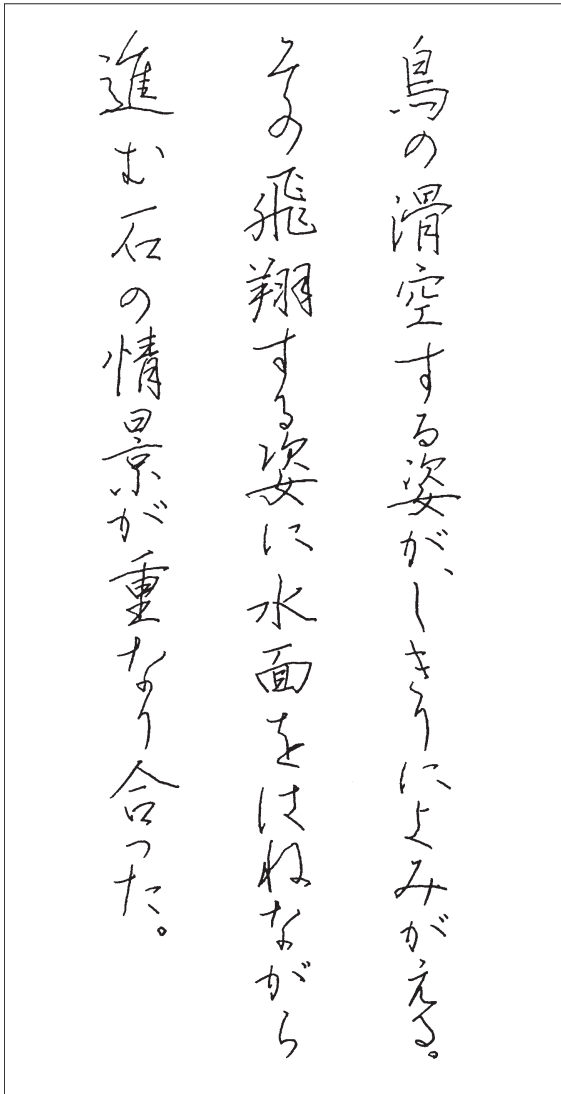
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



正教授 創作部門 (自運作品、自由形式、硬筆用紙使用) で出品。審査料一、〇〇〇円

課題1 (初段階以上)

若い篠竹のような薄緑の茎の先端から、三種ほどの間隔をおいて互い違いについている紫色の花は、紐に繋がれた賑やかな鈴のように見える。

「蘭を焼く」 瀬戸内晴美

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン (黒色) を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入 (色は黒) はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

鳥の滑空する姿が、しきりによみがえる。その飛翔する姿に水面をはねながら進む石の情景が重なり合った。

「虹の翼」 吉村昭